

令和4年度経過観察指標に係る年次報告書(案) (※修正・追記箇所抜粋)

3 「資産及び周辺環境の保護」に関する観察指標

資産及び周辺環境に対する負の影響	観察指標	指標の測定内容及び手法			周期	観察記録主体	令和4年度の 結果	令和3年度の 結果	コメント
		概要	調査範囲	報告項目					
開発・都市基盤施設の整備による影響	1都市基盤施設の整備による影響	b) 遺産影響評価の実施	開発行為者より情報提供を受けた件数等について把握する。	全構成資産 25 件	毎年	山梨県 静岡県 市町村	レベル1 <u>山:42件</u> <u>静:137件</u> レベル2以上 山:0件 静:0件	レベル2以上 山:0件 静:1件	レベル1:無視できる程度の変更 レベル2:小規模な変更 レベル3:大規模な変更 ※詳細は遺産影響評価マニュアル別紙4を参照。
									世界遺産「富士山ー信仰の対象と芸術の源泉」遺産影響評価マニュアル 20ページ5(16)の規定に基づき、市町村法令等所管課が捕捉した事業の件数を報告する。 <u>※山梨県景観配慮条例による捕捉件数を含む</u>

(中略)

6 総括

(中略)

(2)『3「資産及び周辺環境の保護」に関する観察指標』について

(中略)

・その他指標に関する数値に大きな変動はなく、資産及び周辺環境に対する負の影響が確認又は予見されていない。

※令和5年度は、世界遺産登録 10 周年の節目であり、かつ新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが変更されたことなどから、各登山道とも五合目より上方の登山者数が前年度に比べて増加するとともに、国内外から多様な文化的背景・価値観をもった人々が富士山を訪れるようになった。その結果、富士山登山の様相が、従来からは変化しつつある可能性があり、現在、各種取り組みが検討されているところである。
引き続き、経過観察指標の推移を注視していく必要がある。

(中略)

(5)これまでの経過観察指標に基づくモニタリング結果の振り返り

(中略)

・これまでのモニタリングの結果、OUV(顕著な普遍的価値)を損なう事案は確認されなかった。一方、学術的考証に基づく文化財の修理等、OUVの理解向上に寄与する取り組みが着実に計画・実施されていることを確認できた。